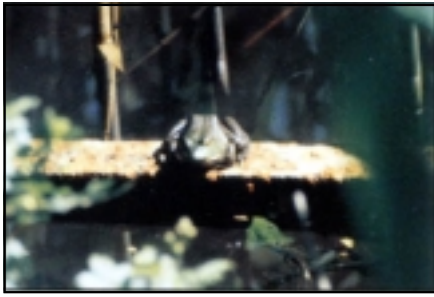


# 関川で見られる動物（動物図鑑）

種名 ウシガエル（ショクヨウガエル）



明治時代に、アメリカから食糧としてもってこられた種類で、日本中に広がりました。体長は約20cmで、6～7月頃に、プォー、プォーと大きな声で鳴きます。新潟県内では、粟島をのぞく、いろんなところの池や用水路で見られます。関川のほぼ全域で、見られます。おもに、池のような、水がうごかないところで産卵していますが、関川本川のよども、産卵に利用しているようです。

種名 ホンドハタネズミ（ハタネズミ）



低地から高山帯まで広く分布しています。背中茶色、お腹は白色で、畑や河川敷の草地に見られ、草やサツマイモ、ニンジンをよく食べます。北城の送水管のはけ口で、死体が見つかりました。河川敷の草地にすみ、関川のほぼ全域にすんでいます。

種名 アオダイショウ（サトメグリ、ムラクル）



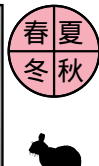
緑色に近い灰色をしていて、はっきりしないたてじまがあります。小さな乳類や、小鳥類をつかまえて食べます。林や畑、人家のまわりでよく見られます。中々村新田と木田の送水管のはけ口や、大瀬川が合流するあたりや、上越大橋で見つかりました。なかでも、上越大橋のあたりでは、よく見られます。

種名 ニホンドブネズミ（ドブネズミ）



背中は茶色がかった灰色で、お腹は白っぽい灰色です。人家のまわりの下水道や河川敷、畑地の広い範囲でみられます。水辺に近いところを好み、なんでも食べます。北陸自動車道の関川橋と今池橋あたりで確認されました。ほぼ全域に分布しています。

種名 トウホクノウサギ（ノウサギ、ヤマウサギ、オサギ）



夏は茶色ですが、冬には白くなります。平地から高山までの森林や、そのまわりで見られます。河口のあたりをのぞいて、関川の全域で見られます。なかでも、春日山橋から上流にたくさんいます。冬は、雪上に、たくさん足の跡がみられます。

種名 ホンドタヌキ（タヌキ、ムジナ、マメダヌキ、タノキ）



人里近くの、広葉樹林の林の中にすんでいて、沢や川の、水に近いところに好んですんでいます。雑食性で、木の実から小動物、人間の残飯まで、いろいろな物を食べます。河口のあたりをのぞいて、関川の全域で見つかりました。なかでも、春日山橋の上流のあたりにたくさんすんでいて、足の跡がよく見られました。餌を探るときや、移動の時に、川にやってきます。